



まるぐちニュース 7月号

丸 第10号
平成23年7月1日



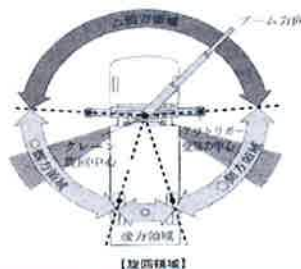
クレーンニュース

建機ニュース

積載形トラッククレーンの安全作業について

積載形トラッククレーンは、荷台付きトラックの荷台と運転席の間に取り付けられるのが一般的で、分類上では移動式クレーンに含まれ、そのほとんどが（吊り上げ荷重3トン未満）という特徴を持っています。これは吊り上げ荷重が3トン未満の移動式クレーンには、過負荷防止装置の装着義務がなく、その分製品が安く購入できるというのが普及理由のひとつと考えられます。一方で積載形トラッククレーンの事故を見てみると「転倒」によるものが非常に多く、原因として先の過負荷防止装置が装着されていないことも一因と考えられ、その他に車両前方領域ではクレーン性能が著しく低下する、荷台積載物の有無により安定度が大きく変化するなど特有の性質が上げられます。

『吊る・積む・運ぶ』・・・トラックとクレーンの機能をひとつにした積載形クレーンは便利な反面ひとたび取扱を間違えると重大な事故に発展してしまうことがあります。どんなに優れた安全装置よりも、クレーン作業を行う作業員ひとりひとりの「安全を守る強い意志」が最も大切なのは言うまでもありません！
担当 中島



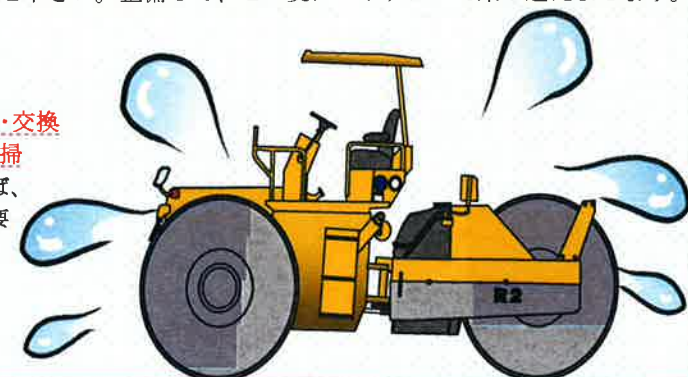
オーバーヒート対策は万全ですか？

夏本番も近づいてきましたが、あなたの機械のオーバーヒート対策は万全ですか？エンジンを冷やして適温に保つのが冷却水です。その冷却水が劣化すると、オーバーヒートの原因になるだけでなく、内部を腐食させ水漏れの原因にもなります。また、ラジエーターの外側（フィン部）の目詰まりやファンベルトの磨耗等でベルトが切れると、オーバーヒートの原因にもなります。点検して悪ければ交換しておくことで安心です。ラジエーターの点検、冷却水ファンベルトの交換もお任せ下さい。整備して、この夏ノートラブルで乗り越えましょう。

オーバーヒート防止対策

- ①冷却水点検・交換
- ②ファンベルト点検・調整・交換
- ③ラジエーターフィン部清掃

※冷却水が茶色になっていれば、ラジエーター内部の清掃が必要



担当 若林

車機ニュース

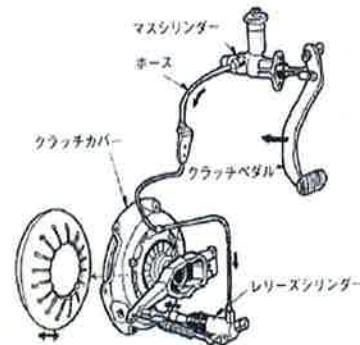
クラッチのメンテナンスについて！

■ クラッチオーバーホール

クラッチオーバーホールが必要になる時期は、車種によっても、またユーザーのクラッチ操作によっても異なります。ユーザーの運転操作によっては、新車から数千キロでクラッチオーバーホールが必要になった事例もありますが、通常のドライバーは約10万kmの走行で、1回目のクラッチオーバーホールになるようです。

■ クラッチ滑り

このクラッチオーバーホールが必要となる兆候として、「クラッチ滑り」という症状が発生します。クラッチ滑りをチェックするには、高速道路や専用道路などを走行しているときに、やや急激な加速をしてみます。そのときにスムーズに加速をすればOK、逆にアクセルペダルを踏んでも加速しないでエンジンの回転だけが高くなる場合には、クラッチが滑っているか、滑り始めていると判断できます。



クラッチのメンテナンスも弊社におまかせ下さい。

担当 藤森

編集後記

ごんにちわ！！とっても暑くなりましたが、お元気でお過ごしでしょうか？

倉敷市木見「住心院」の花しょうぶを見に行きました！



JR木見駅から少し歩いた高台にあるお寺です。無料の駐車場も完備されています。木見の名所なので皆さんご存知だと思いますが、まだ行った事がない方は是非一度訪ねて見たら感動しますよ！花しょうぶが有名ですが、お寺の周りから裏の山一面に珍しい木や花が植えられ非常に綺麗に整備されています。無料で拝見させて頂いた上に、『お接待です』とお茶とお菓子まで用意されていたことには頭が下がりました。

ひと時 和ませていただきました！

担当 八木

